

第5期 第2回さいたま市外国人市民委員会 会議録

1 開催日時および場所

- (1) 日時：令和4年12月27日（火） 午後6時30分～午後8時30分
- (2) 場所：浦和コミュニティセンター 第13集会室

2 出席委員氏名

委員長：西川 ナンシ

委員：王 蕾、羅 昊、ノルル シヤズミラ、金 京垠、
ディプティ アナンダ ムルティ、山下 美賢、柳田 リサ アン

3 議題

- (1) 第5期外国人市民委員会提言内容について
- (2) 意見交換

4 会議の公開

公開 傍聴者はなし

5 会議資料

- ・次第
- ・第5期 第1回さいたま市外国人市民委員会での意見
- ・委員名簿
- ・第1期～第4期さいたま市外国人市民委員会提言内容

6 内容

- (1) 第5期外国人市民委員会提言内容について

《事務局説明》

事務局より、前回の会議で出た意見について説明しました。

- (2) 意見交換

[主な意見]

<学校・保育園について>

- ・子どもの時は、私が学校にとって初めての外国人の子どもだったので、先生たちはどう扱えばいいのか分からなかったようだ。日本人の顔をしているから、言葉も分かると思われていたようだが、実際は外国で育っているから、言葉も

苦手で、授業もまったく分からなかったのに、本人のやる気がないというように見なされた。母は書類の書き方が分からなかったりして、自分がある程度大人になった高校生くらいでは、自分が全部書くようにしていた。

- 子どもが小学校に入学したとき、私も子どもも同じように日本語が苦手で、あれもこれもできないと、文句だけ言われるような形になってしまった。しかし、日本語を勉強して、段々分かるようになってから、本人も変わって自信がついてきた。外国人だから、日本語がよくできないということを先生たちが理解してくれると助かる。2学期に入ってから、日本語支援の先生が手伝ってくれたので、そこからどんどん理解ができるようになった。1学期からだったらもっと助かった。
- 最初は日本の学校の生活のことについて全然分からなかった。高齢者のシルバーワークのところで、学習会があるが、上の子の時は知らなかった。そういう場所があるということは、全部日本語で書いてあり、少し読めるようになってから分かった。下の子はそこに通っていて、日本語と算数を教えてもらっている。
- 子どもが来年小学生なので、11月に保護者説明会に参加した。そこまで難しいことはないと思っていたが、実際現場に行くと、説明を聞いてみると、分からないことばかりだった。終わってから、実は私は外国人で、書類が書けなかったことと、入学後授業などの進み方についていけるのか心配だと相談した。そうしたら、後日学校から電話をされると言われたのでありがたかったのだが、まだ電話がないので、書いていない書類はそのまま、電話を待っているような状況。ほっとかしにされているような気持ちになってしまう。
- 一緒に書き方をやってみせて、サポートしてくれる人がその場にいてくれたらよかった。
- 子どもの保育園では外国人の子どもがいっぱいいる。外国人に対しては、先生も1つずつちゃんと教えて、書き、あとでちゃんと電話で連絡をくれる。分からないことがあればメールでも教えてくれるし、文字で分からなければ絵を描いて、「明日これを持ってきてください」というような形で配慮してくれる。

<コミュニティについて>

- アメリカに住んでいた時、子どもは英語ができなかったが、普通のパブリックスクールに入れた。アメリカにはESLという良い制度があり、その外国人の子どもの言葉のケアをレベルごとにしてくれて、さらに、日常生活のサポートを受けられるよう、言語ごとのコミュニティにつなげてくれる。日本でもそういう制度があればとても良いと思っている。
- 自分の親は日本から外国に移住したので、現地の日本人のコミュニティの中

で、ルールや学校のことをお互いに教えたり、困りごとを共有していた。連絡をとりあうことで、仕事につながったりするので、話し合える相手がいるというのが、本当に生活にプラスになる。同じ境遇の人と知り合えるイベントがあるとよい。

<就労について>

- ・今新型コロナウイルスの影響で、外国人の仕事がない人がたくさんいるので、市からも派遣会社や仕事を、外国人の実習生とか学生の方に紹介してほしい。きっと人が足りない会社もたくさんあると思う。
- ・言葉が通じないと、単純作業だけを割り当てられたり、注意をするときも日本人相手にはしないようなとてもきつい言い方をされる。外国人労働者が現場に入ったときに言葉がわかるように、最低限の語彙力をつける研修があると、働く人の環境やできる仕事の範囲が変わる。
- ・子どもの保育園には外国人の先生がたくさんいるが、日本語が分からないとあまり長く仕事ができなくて、転職してしまう。日本での生活は難しいと言っていた。なかなか日本語が勉強できる場所がないとのことなので、支援があったらよいと思う。

<役所の手続きや情報発信について>

- ・普段はよく行く図書館の掲示物で情報収集している。時々市のホームページを見ている。
- ・いつもアクセスしているところだと情報は得やすい。図書館だと自由にゆっくりと見られるし、いろんな情報を得て、そこからつながりを持てたり、イベントに参加してみようかという気持ちになる。
- ・技能実習生は東南アジアからの方が多。みんな日本に来たとき、とても困って、結局自分のグループに固まることになる。情報もなく、新型コロナのワクチンも申込みや手続きができないということが、本当に大問題だと思う。
- ・やさしい日本語と、簡単な英語で説明してもらえると、外国人も申し込みやすいし、方法を覚えた人から友達や親戚にも教えられて、みんなが助かる。
- ・外国に住んでいる友人に送金したかったが、マイナンバーカードが必要だと分かった。そこで区役所に相談に行ったら、説明が雑で、WEBサイトを案内されたただけだった。申込みをしたが、やり方が分からず間違えて、届いたのは保険証だった。
- ・外国語でマイナンバーカードの手続きについて書いてあるリーフレットもあるが、その言語が母国語ではない可能性もあるので、イラストなどでどのボタンを押すか分かりやすく書いてあると助かる。

- 日本で働いていたら、申請すれば帰国する時に年金を一括払いしてもらえる制度を知らない人が多い。
- 学校にいる日本語指導員は、他の場所でもグループを集めて活動していたりするので、色々なお知らせを渡して、広めてほしいとお願いしてもよいのではないか。
- 初めて日本に来た時は、日本語が分からなかったので、通っていた日本語学校の職員が学生をまとめて、役所で一斉に手続きをした。今はマイナンバーなど手続きが多岐にわたるので、日本語が苦手な人が困ることが多いと思う。やはり紙ベースでの情報が手に届きやすいと思うので、駅など人が多く集まるところに配置してほしい。市報はよく見て、図書館のイベントなどにいつている。
- 婚姻届を日本で提出するときに、受理してもらうまでに5回かかった。自分でもインターネットで調べたりしたものの、受け付けてもらえなかった。4回目で初めて必要書類の一覧をもらい、なぜ最初からくれなかったのか、と思った。

<やさしい日本語について>

- 役所の職員だけではなく、スーパーの人、飲食店の人など日常で接しているいろんな日本人に、やさしい日本語の存在だけでも認識してほしい。外国人にとっては、本当に助かる。

まとめ

- 今日の意見を事務局で整理し、次回の会議で引き続き提言の内容を議論していくことになりました。

以上